

竜の眼

編集方針

- ① 会員の自由かつ達な意見交換の場
- ② オンブズマン活動の発展に貢献
- ③ おもしろく、分かりやすく、役に立つ

第20号 2011.6.15発行
 仙台市民オンブズマン・タイアップグループ
 仙台市青葉区中央4-3-28朝市ビル3F
 宮城地域自治研究所内
 TEL022(227)9900 FAX022(227)3267
 http://sendai-ombuds.net/
 e-mail:s-ombuds@nifty.com



初夏の訪れを告げる薔薇

撮影：三塚芳徳

仙台市民オンブズマンは震災後の活動のなかで、仙台市に対して復興に力を注ぎ地下鉄東西線工事はストップすべきと、申し入れをおこないました。市民感情からいっても当然の申し入れですが、オンブズマンの十河代表に詳しく書いていただきました。

地下鉄東西線工事ストップを

仙台市民オンブズマン 代表 十河 弘

仙台市民オンブズマンはこれまで地下鉄東西線計画の過大な需要予測を批判し、これをやめさせるため裁判所内外で活動を展開してきました。その中で、オンブズマンは、第4回パーソントリップの計算結果を真摯に受け止めれば、東西線の需要は従前の需要予測（一日11万9000人という）の6割以下であると推測し、仙台市の需要予測は事業推進のため第4回パーソントリップの結果を直視しないものであると批判してきました。需要予測が、オンブズマンの予測値に近くなるとすれば、東西線は単年度収支ですら黒字になることはなく、毎年一般会計から巨額の赤字補填をしなければならないという状況になります。

加えて、今回の東日本大震災の現状は、東西線事業の必要性を、早急かつ真剣に問いかけています。震災によって、東西線の需要見込みはより厳しい状況に追い込まれてしまいました。市バス路線を荒井駅に結節させて仙台市東部の住人を地下鉄の乗客にしようという目論見ははずれました。また、東西

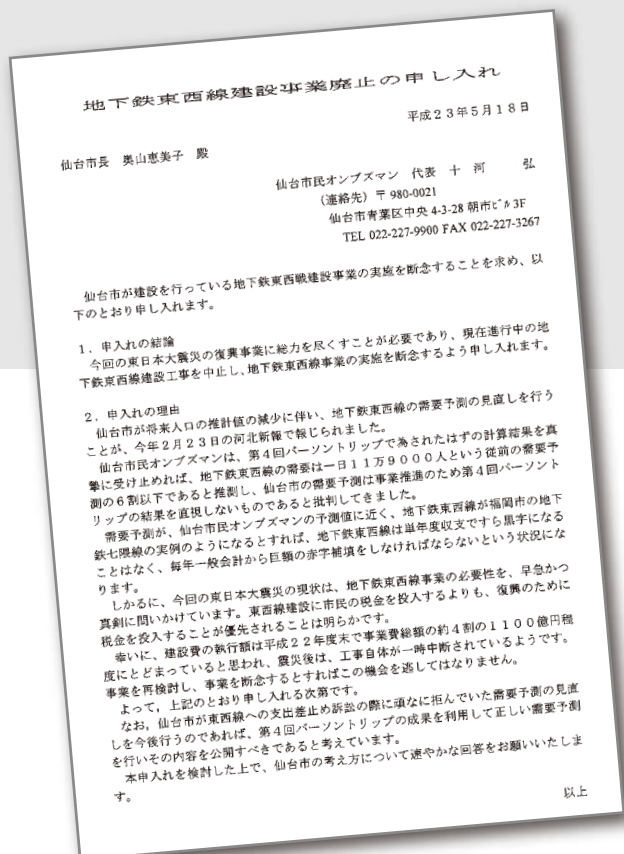
線建設に市民の税金を投入するよりも、復興のために税金を投入することが優先されることは明らかです。幸い、建設費の執行額

は平成22年度末で事業費総額の約4割の1100億円程度にとどまっていると思われ、震災後は、工事自体が一時中断されていました。

そこで、オンブズマンは「事業を再検討し、事業を断念するとすればこの機会を逃してはならない」と考え、本年5月18日、奥山仙台市長に対して東西線の事業廃止を申し入れました。

ところが、本年6月2日、市長は「地下鉄が災害に強く安全・安心な公共交通機関であることが再認識され、東西線整備の必要性もよりいっそう増したものと考えており、計画通り平成27年度開業に向けて着実に事業を推進していく」と回答したうえ、「東西線の新たな需要予測につきましては、・・・適切な時期に公表する」と述べるにとどまりました。結局、市長は一度走り出したら何があっても公共事業を止めようとしないうけです。

震災で多額の財源が必要になるにもかかわらず、東西線というハコモノが本当に必要なのか、作ってしまって市財政に赤字を垂れ流すことを容認できるのか、慎重に見極めるべきでしょう。少なくとも、震災後を見越して需要予測をやり直し、その内容を市民に公表し、それでも東西線を建設するのかどうか、市民の意見を聞くべきでしょう。それをしないまま作ってしまい、一日数万人の利用にとどまったとき、市長は責任を取れるのでしょうか。いったい誰が責任を取るのでしょうか。



仙台市民オンブズマンとタイアップグループの 総会と懇親会のご案内

7/15 金

ホテル白萩

オンブズマン総会 16:00～
タイアップグループ総会 18:00～

▶懇親会 18:30～20:00(会費5,000円)

※今年の総会も平日の開催です。ご注意ください。
 ※どちらの総会も参加できますので、ご都合をつけていらしてください。
 ※懇親会は、会費制です。震災後初のイベントです。再会をお待ちしています。同封のハガキで出欠をお知らせください。
 ※懇親会用のお飲み物などの差し入れをお待ちしています。

次回例会のご案内

8月2日(火) 午後6時30分より

宮城地域自治研究所(朝市ビル3階)

賑やかに執りおこないたいと思います。ふるってご参加ください。若干のお飲み物・食べ物などを用意しますが、お持ち込みは大歓迎です。